

神奈川県東海道・宿場町・徳川家康ゆかりの地

番号	名称	住所	アクセス	コンテンツの紹介
1	瀬戸神社	横浜市金沢区瀬戸18-14	京急線、シーサイドライン「金沢八景」駅から徒歩2分	この霊地に源頼朝が挙兵に際して戦勝を祈願して、伊豆三島明神を勧請したのが瀬戸神社の始まりです。鎌倉時代から伝わる多数の文化財が保存されています。小田原北条氏滅亡後、新たな支配地域の管理体制を進める過程で、瀬戸神社に百石の社領を寄進する朱印状を出しました。慶長5年(1600)7月には金沢に参拝し、当地で一泊ののち江戸へ向かいました。さらに同年9月、関ヶ原に向かって進軍した時は、船手奉行向井兵庫助の国一丸に乗船して海路にて来訪、金沢に上陸してのち、陸路を進み関ヶ原に到りました。江戸城中奥の将軍の居間(御休憩所)の襖絵には金沢八景の風景が狩野派の絵師により描かれ、「金沢の間」とも呼ばれたといわれます。また、家康の没後には家康公を祀る東照宮が権現山に創建されましたが、明治になって瀬戸神社に合祀されました。この東照宮に祀られた家康公の御神像は、本多忠勝の子孫の本多政長の奉納とされます。
2	金沢八景権現山公園	横浜市金沢区瀬戸20-3	京浜急行またはシーサイドライン「金沢八景」駅よりすぐ	京急「金沢八景駅」の駅前に位置する風致公園で、東照宮とその別当寺であった円通寺の境内の跡地に整備されました。園内にある茅葺屋根の「旧円通寺客殿」は、横浜市の特定景観形成歴史的建造物に指定されており、隣接する横浜市指定天然記念物である樹叢(じゅそう)とともに、江戸時代の金沢八景の情景を今に伝えています。権現山の園内頂上からは平潟湾が望め、公園の西側にある展望広場からは園内と市街地が一望できます。園内には、サクラのほか、ウメやモミジなどの花木が植えられ、歴史的建造物とともに美しい風景を鑑賞することができ、訪れた人たちが安らげる憩いの空間となっています。当時、境内山頂から見た風光明媚な景色を気に入った家康は、この地を何度も訪れました。またこのあたりを海の防衛地として目を付けていたようです。家康の没後、お気に入りだったこの場所に東照宮が創建されたと言われています。
3	竹嵩山(ちくがんだん) 禅林寺(ぜんりんじ)	釜利谷東6-40-32	京急「金沢文庫駅」西口よりバス「坂本」下車徒歩10分	足利持氏が創建。その後、小田原北条氏家臣の江戸衆重役の伊丹三河守永親(いたみみかわのかみながちか)が先祖供養のために禅林寺を再興したと伝えられています。伊丹氏一族が、江戸浅草寺・江戸城内紅葉山東照宮と関係があって、禅林寺のある坂本村が紅葉山東照宮領となり、禅林寺に東照大権現(徳川家康)の御神影が下賜されました。毎年家康公の命日(4月17日)に一般公開されます。
4	知足山 龍華寺(ちそくざん りゅうげじ)	金沢区洲崎9-31	京急「金沢八景駅」より徒歩7分	源頼朝が瀬戸神社を建立した後、文覚上人と共に瀬戸神社の別当寺として六浦山中に建てた「蔵福寺(のちに浄願寺と改名)」が始まりといわれています。その後、戦乱や火災で浄願寺の伽藍が荒廃したため、明応8年(1499)融弁上人(ゆうべんしょうにん)が、兼務していた光徳寺と併合し、当地に移り、龍華寺となりました。貴重な宝物も多く、旧本尊「弥勒菩薩坐像」(室町時代)のほか、「脱活乾漆造菩薩坐像」(天平時代)、「木造阿弥陀如来坐像」(平安時代)、「地藏菩薩坐像」(室町時代)などが、横浜市指定文化財となっています。牡丹などの華の寺としても知られます。頼朝ゆかりの地である金沢を何度も訪れた家康は、瀬戸神社参拝ののち、別当寺である龍華寺に立ち寄りしました。寺の名前を「龍源寺(りゅうげんじ)」といい間違えたとの話が伝わっています。
5	横浜市金沢公会堂内 ホワイエ「金沢八景を描いた襖絵」	金沢区泥亀 2-9-1	京急「金沢文庫駅」より徒歩11分 京急「金沢八景駅」より徒歩13分	江戸城本丸御殿、中奥休憩の間 上段の間(徳川将軍の日常生活の間)に「野島」を中心に描かれた「金沢八景」の襖絵がありました。床の間を背に座ると正面に「金沢八景」の襖絵が見えたそうです。当時は有名な景勝地であったということが伺えます。その襖絵を復元したものです。 ※ご覧になりたい方は公会堂受付でお尋ね下さい。 ※講堂使用時はご覧いただけませんのでご了承ください。
6	長慶寺	横浜市栄区中野町40	本郷石橋バス停 徒歩10分	領内見聞に来た家康が訪れ、水を所望したところ、とてもおいしかったので、その時飲んだ古茶碗と引き換えに、立派な茶碗を下附した。三代将軍家光は寺領13石の朱印状を与え、徳川家は代々家康ゆかりの寺として保護した。
7	長光寺	栄区小菅ヶ谷4丁目1-27	JR本郷台駅 徒歩10分	慶長の頃、この辺りで徳川家康が鷹狩をした時、鷹が大松に止まって降りてこなくなった。小堂で休息し、中に安置されていた薬師如来に礼拝すると、鷹は家康の手に戻ったという。そこで、家康は野辺の花を摘んで手向けた。後に、三葉葵の紋を下附したと伝え、以後花立薬師と言われている。この薬師如来像がこの寺に現存する。
8	鷹匠橋	神奈川県横浜市栄区長尾台町212付近	JR大船駅からバス 長尾台バス停下車 徒歩1分	徳川家康がしばしば鷹狩りを理由にこの地を訪れたと言われている。
9	二ツ橋地名由来の碑	横浜市瀬谷区瀬谷1-27	三ツ境駅から徒歩約12分	二ツ橋交差点に石碑があり、昭和62年(1987年)に建てられ、道光親王と徳川家康が詠んだと伝えられる2首の歌が刻まれている。 「相模野の 流れもわかぬ 川水を 掛けならべたる 二ツ橋かな」 道光親王(文明16年(1484)11月 詠) 「しみじみと 清き流れの清水川 かけ渡したる 二ツ橋かな」 徳川家康(慶長18年(1613)12月 詠) この歌のいずれかは定かではないが、二ツ橋地名の由来といわれている。2首ともこのあたりの清らかなたたずまいにふれて詠まれたもので、その昔は豊かな自然に恵まれた土地であった様子がうかがえる。
10	楽老南公園	横浜市瀬谷区三ツ境5-5	三ツ境駅から徒歩約2分	古くは美屋古山と呼ばれ、狼煙台か、物見台として築かれていた。慶長18年(1613年)徳川家康が駿河に向かう途中、この峰で休息し、住民が差し出した湯茶を飲まれた。「老人の楽しみは良い景色を見ながら茶を飲むこと、これからは楽老峰と呼ばれよ」と、言われたと伝えられている。 ※言い伝えに関する、碑や看板は建てられていません
11	生麦魚河岸通り(なまむぎうおがしどおり)	神奈川県横浜市鶴見区生麦5丁目18-25	京急電鉄「花月総持寺駅」から徒歩約5分	徳川幕府以来、将軍のいる江戸城に魚介や野菜等を提供する8つの特別な地域である御菜八ヶ浦(おさいはちがうら)のひとつとして、江戸城に魚介類を定期的に献上していた。文政年間には、生麦村242軒の内60軒が漁業に従事していた。海岸の埋立で漁業は衰退し、昭和46年に漁業は完全に消滅した。最盛期に比べ魚介商の店は減少したものの、現在も飲食店業者から一般客まで、新鮮な食材を求めにくる。11月23日は、生麦旧東海道まつりで賑わう。
12	市場村一里塚(いちばむらいちりづか)	神奈川県横浜市鶴見区市場西中町4-8	京急電鉄「鶴見市場駅」から徒歩約5分	慶長9年(1604)、幕府(徳川家康)は東海道などの諸街道を修復し、日本橋を基点として街道の両側に相対して一里塚を築いた(横浜市登録文化財)。旧東海道に面して、「市場村一里塚」の記念碑が建っている。江戸日本橋から五つ目の一里塚。明治9年(1876)の地租改正のあり、この一里塚も払い下げられ、稲荷社のある片方だけが残っている。
13	二ヶ領用水路跡地	神奈川県横浜市鶴見区矢向3丁目17	JR南武線「尻手駅」から徒歩約8分	二ヶ領用水は、慶長2年(1597)、徳川家康より治水と新田開発の命を受けた代官小泉次大夫が、約14年の歳月をかけて完成させた。全長32km、灌漑面積は約2000haに達し、稲毛領、川崎領など、あわせて六十ヶ村の耕地を潤し、米の収穫量は飛躍的に伸びた。この貴重な用水も本来の用途を終えて埋め立てられ、跡地は昭和47年道路・緑地帯になった(横浜市登録文化財)。
14	清源院	神奈川県横浜市戸塚区戸塚町4907	JR「戸塚駅」西口から徒歩約5分	・徳川家康の側室だったお万の方が家康の病氣見舞いに行ったときに拝領した歯吹阿弥陀如来像が本尊です。 ・鎌倉時代には、長林氏が建立したと伝わる長円寺がありました。 ・家康の死後、お万の方が尼となり、自身の法名である清源院と名を改めて、当寺に入りました。 ・墓地最上部にお万の方の火葬跡という古碑があります。
15	大善寺	神奈川県横浜市戸塚区上矢部町106	JR「戸塚駅」東口からバスと徒歩で約15分	・開基は徳川家の家臣、石川八右衛門重正です。 ・天正十八(1590)年、徳川家康の江戸入りに随従して関東に来住しました。 ・江戸入りしたあと家康は相模の地でたびたび鷹狩りをしました。大善寺は鷹狩りの際の御膳所(食事処)となり、門前に家康の馬をとめる目印である「下馬札」が建てられていました。「下馬札」は現存していますが、一般公開はされていません

神奈川県東海道・宿場町・徳川家康ゆかりの地

番号	名称	住所	アクセス	コンテンツの紹介
16	五太夫橋	神奈川県横浜市戸塚区吉田町951付近 (舞岡川にかかる橋、吉田町と柏尾町の境)	JR「戸塚駅」東口から徒歩で約15分	・石巻五太夫康敬は小田原北条氏の家臣で、豊臣秀吉の小田原攻めの際北条方の使者でした。 ・北条氏滅亡後、徳川家康の助けにより一命をとりとめた五太夫が、天正18(1590)年に江戸に移る家康をこのあたりで出迎えたことから、五太夫橋の名がつけられたといわれています。 ・五太夫は中田村(現在の泉区)の領主になりました。
17	品濃一里塚	神奈川県横浜市戸塚区品濃町555付近、平戸4丁目16-45付近 (東海道の両側にあり、東海道が町界になっています)	JR「東戸塚駅」東口から徒歩で約15分	・品濃一里塚は、江戸から数えて9番目の一里塚です。 ・一里塚は、江戸日本橋を基点として、街道の一里(約4km)ごとに設けられていました。道の両側に土で小山をつくり、目印として頂上に木が植えられました。旅人は距離の目安や、木陰を休憩所としていました。 ・品濃一里塚は、神奈川県内では唯一ほぼ原形で残っている一里塚で、県の指定文化財になっています。
18	戸塚宿 江戸方見付跡	神奈川県横浜市戸塚区吉田町884	JR「戸塚駅」東口から徒歩で約15分	・見付とは、宿場の出入口のことで、大名などが通る時は、宿場の役人がここで出迎えました。 ・江戸に近い方を「江戸方見付」(当該スポット)、京都に近い方を「上方見付」と呼びました。見付から見付までを「宿場」といい、戸塚宿は2つの見付跡に挟まれた約2.3kmの範囲とされています。
19	澤邊本陣跡	神奈川県横浜市戸塚区戸塚町4142	JR「戸塚駅」西口から徒歩で約10分	・澤邊本陣は戸塚宿に二つあった本陣のうちの一つです。 ・本陣は、参勤交代の大名や公家、天皇の使いである「勅使」などが公用の旅で宿泊する宿舎のことです。 ・本陣創設時の当主、澤邊宗三は戸塚宿の開設にあたって幕府に強く働きかけた功労者です。明治天皇の東下の際には行在所になりました。
20	東海道かわさき宿交流館	川崎市本町1丁目8番地4	JR川崎駅徒歩10分 京急川崎駅徒歩6分	「東海道かわさき宿交流館」は、東海道川崎宿の歴史や文化を学び、それを後世に伝えていくための施設として、同時に、地域活動・地域交流の拠点となることをめざして整備された施設です。東海道川崎宿に関する展示や江戸時代を感じるイベントなどを実施しています。 川崎宿は、江戸時代に東海道53次の一つとして栄えた宿場で、現在の川崎の街の原点となる重要な歴史的資源ですが、幾度もの火災や震災、戦災などによって、多くの関連資料が失われ江戸時代の宿場の面影は、ほとんど残っていません。本施設は、川崎宿に関連して残る記憶と記録を掘り起こし、さまざまな手法を凝らし、多くの人に楽しみながら「川崎宿」を知っていただくための施設として、地元の方々をはじめ多くの皆様の御協力により、平成25年10月1日に開設。2023年は川崎宿起立400年、そして開館10周年を迎えました。
21	新戸の一里塚(しんどのいちりづか)	相模原市南区新戸2392-12	JR相模線「相武台下駅」より徒歩12分 小田急線相武台前駅より4番のりばバス「原当麻駅行」乗車→「新戸山谷」下車→徒歩3分	新戸の一里塚は、旧新戸村の東、府中街道沿い(現在の新戸公園西側)にあったとされる、近世の相模原の道の歴史を伝える史跡です。 『新編相模国風土記稿』には新戸村の塚として、府中道の左右にあり、高さは一丈(約3メートル)で、頂に榎を植えていたが寛政年間(1789年から1801年まで)の頃枯れた、と記されています。 また、塚は元和3(1617)年に徳川家康の棺を日光に改葬輸送する時、築かれたとも記されています。 府中道は旧新戸村から、現在一里塚が残されている町田市の本曾、小野路をとおり武蔵府中へ至る道筋です。 ※一里塚 街道のみちしるべとして築かれた塚で、江戸時代には主要街道沿いに一里(約4キロメートル)ごとに整備された。
22	内藤清成陣屋跡(ないとうきよなりじんやあと)	相模原市南区新戸2058	JR相模線「相武台下駅」より徒歩5分	天正18(1590)年に、内藤清成が新戸に設けたとされる陣屋跡の伝承地です。 内藤清成は、三河国岡崎の生まれで、相模国東郡(高座、鎌倉を合わせた郡名)内に5000石を拝領しました。 広さ2反6畝余り(約2,600平方メートル)ほどであったといわれる陣屋は、清成が常駐するためのものではなく、市域における清成の所領である新戸村、磯部村、当麻村、下溝村、上溝村、田名村、大島村の7か村を支配するために設けられたものでした。新戸村名主の安藤主水が責任者とされていました。 陣屋は領主が代わった後までありましたが、元禄末期に廃絶したとされています。
23	お髪塚(おはつづか)(当麻山無量光寺境内)	相模原市南区当麻578	JR相模線「原当麻駅」より徒歩15分 JR相模線原当麻駅よりバス「厚木バスセンター行」乗車→「当麻市場」下車すぐ	徳川家康より9代・10代前の先祖と言われる世良田有親・松平親氏親子に由来するもので、両名は新田氏の一族世良田氏の出で、南北朝の戦乱に敗れ足利氏に追われ、8代他阿良光の時に来山し帰依したと伝えられます。剃髪し法名を長阿弥・徳阿弥と称するようになったとされます。 落とした髪を埋めたものがお髪塚と伝えられています。時僧となって後には、三河国松平郷(愛知県豊田市)に住し、徳川家康の先祖となりました。
24	津久井城(つくいじょう)(津久井湖城山公園内)	相模原市緑区根小屋162(事務所所在地)	JR横浜線・相模線、京王線橋本駅より1番のりばバス「三ヶ木行」乗車→「津久井湖観光センター」下車→徒歩20分	県立津久井湖城山公園は、城山ダムの両岸と、戦国時代の山城、津久井城跡を利用した公園です。ダムの両側に広がる「水の苑地」と「花の苑地」、そして城山南麓の「根小屋地区」が開園しています。 津久井城は、「城山」という山そのものを改造した山城(やまじろ)のことで、戦国時代には北条氏の有力支城として、この地域一帯の統括拠点として機能していたことがわかっています。 天正18(1590)年、豊臣秀吉の小田原攻めの際、北条方の関東の諸城も前後して落城しました。津久井城も徳川勢の井伊直政、本多忠勝、平岩親吉らに攻められ、落城したと伝えられます。落城の際に大規模な戦闘はなかったようです。落城後は徳川氏の直轄領になり麓に陣屋が置かれ、代官が政務を執っていました。 陣屋は寛文4(1664)年に廃止され、そこで城山は地域統括拠点としての機能を終えることとなります。
25	浄土寺	神奈川県横須賀市西逸見町1-11	JR「横須賀駅」より徒歩7分、京急「逸見駅」より徒歩4分	鎌倉時代に開基の浄土真宗のお寺。三浦按針の菩提寺で、按針より寄進された念持仏観音像など、ゆかりの品々を所蔵している。 「按針忌法要」や「按針フェスタ」など、毎年様々なイベントの会場となっている。 按針のまち逸見を愛する会の事務局を務めている。
26	史跡 三浦安針墓	神奈川県横須賀市西逸見町3丁目57	京浜急行線「逸見駅」より徒歩25分	三浦安針は、本名ウィリアム・アダムズという英国人で、オランダ東インド会社が東洋に派遣した艦隊に乗船し、航行中に大風に会い九州へ流れつきました。 安針は徳川家康の信任を得て外交顧問となり、三浦郡逸見村に領地を与えられました。航海術・天文学・造船術にもすぐれており、西洋帆船も作りしました。 安針は1620年に平戸で亡くなりました。 その後、領地のあった逸見には、安針と妻を供養する供養塔が建てられました。 大正時代に供養塔のある塚山部分は国の史跡に指定され、現在は、史跡周辺が神奈川県立塚山公園として整備され、市民に親しまれています。
27	中原御殿跡	平塚市御殿2丁目8-9 平塚市立中原小学校	JR東海道線「平塚」駅北口より神奈川中央交通バス 伊勢原団地経由伊勢原駅南口行他「中原御殿」下車	慶長元年(1596)年に造営された徳川家康の宿所。それまで家康の休息所とされていた豊田本郷村の清雲寺が文禄4年(1595)に洪水被害にあったため、砂丘上の中原の地に造営された。中原御殿は代官頭伊奈忠次の指揮で造営され、『新編相模国風土記稿』によればその規模は東西78間(約141m)、南北56間(約101m)、四方に幅6間(約11m)の堀がめぐらされていた。家康は中原御殿を拠点とした鷹狩や民情視察のほか、御殿において大名・家臣の謁見、論功行賞などもおこなひ、中原御殿は臨時に政治を行う場としても機能した。家康没後、元和3年(1617)3月20日に久能山から日光への改葬のため家康の棺が立ち寄って以降、中原御殿は使用されなくなり、明暦3年(1657)に解体された。さらに元禄10年(1697)には跡地に松林が植えられ、その後東照宮の祠も建立された。現在、中原御殿の大部分は平塚市立中原小学校の校地となっており、東照宮は明治42年7月に日枝神社(平塚市中原3丁目20-16)に合祀され遷座した。
28	善徳寺山門	平塚市南原3-2-7 南原山永琳院善徳寺	JR東海道線「平塚」駅北口より神奈川中央交通バス 金目経由秦野駅北口行き他「南原土手」下車	善徳寺の山門は、慶長元年(1596)年に造営された中原御殿の裏門を移築したものと伝えられている。
29	豊年山清雲寺	平塚市豊田本郷1760	JR東海道線「平塚」駅北口より神奈川中央交通バス 城島経由伊勢原駅南口行「清雲寺前」下車	徳川家康が平塚市域周辺で鷹狩を行った際の休息所と伝えられる寺。慶長元年(1596)の中原御殿造営以前からの休息所と伝えられ、家康が名水とされる寺内の井戸の水で茶を飲んだといわれることから、別名「御茶屋寺」とも称される。清雲寺には家康から賜ったと伝えられる葵紋の付いた銚子・茶碗が残されている。また、家康が茶を飲む際に使用したとされる茶釜も残されており、ともに寺宝として今に伝わっている(平塚市博物館寄託)。

神奈川県東海道・宿場町・徳川家康ゆかりの地

番号	名称	住所	アクセス	コンテンツの紹介
30	大堤	平塚市南金目	JR東海道線「平塚」駅北口より神奈川中央交通バス 金目・南平橋経由秦野駅行「北金目入口」下車	中原御殿は文禄4年(1595)の清雲寺の洪水被害を契機に、代官頭伊奈忠次の指揮で翌慶長元年(1596)に造営された。その御殿造営と同時に、同じ伊奈の指揮により金目川通りの堤防も普請された。金目川の堤防普請は、洪水に苦しむ金目川周辺村民の困難を徳川家康が耳にし、憐れんだことによると伝えられ、金目川最大の堤防である「大堤」は敬意をこめて「御所様御入国以来之堤」「御所様堤」とも呼ばれる。水害を避けた場所への中原御殿の造営と金目川の治水事業がセットで実施されており、中原御殿の造営が大堤普請・金目川堤防の整備を促したといえる。 金目川通りの堤防の維持・修復は、当初幕府の費用支出による「御普請」として実施された。しかし、幕府の経費削減策の影響を受け、享保期(1716～1735)以降、御普請は停止されることになった。ただ、その過程で地域の人々は御普請維持に向け、金目川の堤防が徳川家康により普請された由緒を強調した。そして、御普請停止以降も、洪水被害を受けた村々は堤防普請への協力を求めて徳川家康の由緒を語った。金目川通りの治水は地域の生活・生産にとって死活問題であり、徳川家康による金目川堤防の普請・整備とその由緒は、県下有数の稲作生産量を誇る現代の平塚市の農業都市としての特徴を形成するうえで、大きな意味をもっていったといえる。
31	英勝寺	扇ガ谷1-16-3	鎌倉駅西口から徒歩15分	寛永13年(1636)、江戸幕府の初代将軍・徳川家康の側室であったお勝の方(後の英勝院、太田康資娘)を開基山とし、太田道灌の屋敷跡と伝わる場所に創建された尼寺。英勝院が養育した水戸藩主徳川頼房の娘が初代住持となって以来、代々当家から住持を迎えた。英勝寺の裏山には歴代住持の墓地がある。
32	鶴岡八幡宮	雪ノ下2-1-31	JR鎌倉駅東口から徒歩10分	源頼朝公が石清水八幡宮を由比郷鶴岡に勧請したこと由来する。治承4年(1180)に源頼朝公が現在地に遷した。頼朝公の死後も時代を問わず篤い崇敬を受けた。特に豊臣秀吉が当宮の造営を徳川家康に命じて以降、江戸幕府も再建や定期的な修造などを継続的に行った。
33	建長寺	山ノ内8	JR北鎌倉駅より鎌倉駅方面に向かって徒歩約20分	建長5年(1253)、鎌倉幕府第5代執権・北条時頼が中国(宋)の高僧・蘭溪道隆を迎え創建した日本最初の禅宗専門道場。徳川家康は寺領を寄進したほか、家康に重用された僧・以心崇伝(本光国師)が住山に入ったこともあり、幕府に保護された。また、現在の仏殿・方丈前唐門・西来庵唐門は、増上寺にあった2代将軍・徳川秀忠の夫人・お江の方の御霊屋を譲り受けたもの。
34	円覚寺	山ノ内409	JR「北鎌倉駅」から徒歩1分	二度の元寇(文永・弘安の役)で亡くなった両軍の兵士を弔うため、弘安5年(1282)、鎌倉幕府第8代執権・北条時宗が中国(宋)の高僧・無学祖元を迎えて創建した禅宗寺院。創建以来、北条氏をはじめ朝廷や幕府からの篤い帰依を受け、徳川家康も寺領を寄進した。寛永2年(1625)には家康が寵愛した側室・養儀院の冥福のため、仏殿が再建された。※舍利殿については、近くで拝観することはできません。
35	光明寺	鎌倉市材木座6-17-19	JR「鎌倉駅」東口バス7番乗り場から小坪経由「逗子駅」行き10分、「光明寺」下車徒歩1分	浄土宗の大本山で、創立は寛元元年(1243)と伝わる。徳川家康は、父祖以来の浄土宗門徒であったため、寺領を寄進したほか、慶長2年(1597)には光明寺を関東本山とする掟書を知恩院より発布させた。後、慶長7年(1602)には浄土宗の関東総本山となった。
36	貞宗寺	鎌倉市植木656	大船駅西口バス乗り場より「渡内経由藤沢行き」乗車、「植木バス停」下車徒歩3分程度	浄土宗寺院。徳川秀忠の母方の祖母、貞宗院(家康側室お愛の局の生母)の没後、貞宗院の隠棲地に慶長16年(1611)に建立され、御霊屋(おたまや)も現存する。2代将軍・秀忠公から14代将軍・家茂公までお位牌が安置されている。
37	藤沢御殿跡	藤沢市藤沢1-9-2他	JR東海道線・小田急線「藤沢駅」から徒歩約15分	慶長6年(1601)に徳川家康により東海道の整備が行われ藤沢宿が誕生しました。それより先に、藤沢には徳川家康が往来の際に宿泊施設として利用した藤沢御殿がありました。その設置年代は明らかではありませんが、『新編相模国風土記稿』によると慶長16年(1611)以前とし、『相中留恩記略』によると慶長元年(1596)の建設と記されています。滞在記録を『慶長記』からみると、慶長5年6月26日に藤沢御殿に宿泊し鎌倉遊覧を行い、同年9月2日には関ヶ原へむかう際に立ち寄っていることから、すでにこの時期には藤沢御殿が設置されていたと考えられます。家康から三代家光の時代まで利用記録が計28回と確認されました。御殿が廃止された時期も明らかではありませんが、『徳川実紀』によると寛永11年(1634)に家光が利用したのが最後の記録となっています。現在は住宅街となっていますが、その名残として「御殿辺」「御殿橋」などの地名が付近に残っています。
38	相中留恩記略(そうちゅうりゆうおんきりやく)			天保10年(1839)成立の地誌。江戸後期の渡内村の名主・福原高峯が父・高行の遺志を継いで編纂しました。徳川家康を「大神君」と称し、相模国内の徳川家康の足跡・逸話の紹介を中心に記述され、挿絵は江戸の絵師・長谷川雪堤が手がけています。 「相中留恩記略」全26冊、関連史料として、その絵図35枚、伝広重筆の小量図1幅、福原高峯・福原高行・川戸高繁画像各1幅、「留恩永宝」1巻、左平太昌平坂学問所入門許可状1通、の67点が藤沢市指定重要文化財(歴史資料)に指定されています。現在、藤沢市文書館に寄託されています。
39	旧福原家長屋門	藤沢市川名字新林411番1(新林公園内)	JR東海道線・小田急線「藤沢駅」から徒歩約10分	江戸時代の地誌『相中留恩記略』を編纂した福原高峯を輩出した福原家の長屋門です。建築年代は明確ではないが、その形式等から江戸後期と推察されました。平成18年(2006)に市に寄贈され、新林公園内に移築復原されました。 福原家は中世の三浦一族の流れをくむ旧家であり、江戸時代には渡内村の名主をつとめました。『相中留恩記略』には天正18年(1590)に福原重種が家康の巡覧の際に嚮導をつとめ休憩時に家を提供した旨が記されています。 藤沢市指定重要文化財(建造物)。
40	用田辻	藤沢市用田162あたり	神奈中バス停「用田辻」下車すぐ	用田辻は、中原街道と柏尾通り大山道が交差する交通の要衝であり、かつては旅籠が軒を連ね賑わっていました。現在の交差点の近くには、安政四年の銘がある大山道標が建っています。
41	二伝寺	藤沢市渡内3丁目13-1	神奈中バス「渡内会館入口」バス停から徒歩約9分、江ノ電バス「渡内中央」バス停から徒歩約8分	藤沢市渡内に所在する浄土宗の寺院。正式名称は戒法山宝国院二伝寺。永正2年(1505)にのちに渡内村の名主をつとめる福原家の福原忠重の助力により創建されたと伝わります。境内には、松平正次一族の墓や福原家の墓があります。松平正次は、玉縄城開城後に家康から屋敷を賜り渡内に住み、玉縄城を守護したとされます。養子にあたる松平正綱は家康の側近として重用され、日光東照宮の参道の杉並木を整備したことで知られます。また、家康の命によってキリシタン改宗に尽力した幡随意上人は藤沢市善行で生まれ、二伝寺で出家しました。
42	江島神社	藤沢市江の島2丁目3-8	小田急片瀬江ノ島線「片瀬江ノ島駅」徒歩15分	鎌倉時代には、岩屋に参籠して戦勝祈願を行った源頼朝が八臂弁財天と鳥居を奉納したと伝えられています。また後宇多天皇は、蒙古軍を撃ち退けた御礼として、江島大明神の勅額を奉納されました。このことから「戦いの神」としての弁財天信仰が広がり、東国武士たちが多く江の島を訪れるようになりました。江戸時代になってからは泰平の世となり、江島神社は「戦いの神」から「芸能・音楽・知恵の神」として、また「福德財宝の神」として信仰されるようになりました。慶長5年(1600年)には徳川家康も参詣、代々の将軍たちも、病気の治癒、安産、旅行の安全などを祈願したと伝えられています。
43	旅館・岩本楼本館	藤沢市江の島2丁目2-7	小田急片瀬江ノ島線「片瀬江ノ島駅」徒歩12分	旅館・岩本楼本館の由緒は、はるか鎌倉時代のお寺「岩本坊」に遡ります。時は源頼朝の時代、「岩本坊」は、江の島岩屋および、江島神社中之坊(現在の奥津宮)の管理を担う別当寺でした。後に、「岩本坊」は「院」号を与えられます。 鎌倉時代には源頼朝が江の島に来島したとされ、天下泰平の江戸時代に入ってから、歴代の将軍が頼朝を崇拝したことから、江戸の町では弁財天信仰が盛んになりました。江戸時代後期より、神仏参拝を名目とした庶民の観光が増え、江の島は大変な賑わいとなりました。

神奈川県東海道・宿場町・徳川家康ゆかりの地

番号	名称	住所	アクセス	コンテンツの紹介
44	遊行寺宝物館	神奈川県藤沢市西富1の8の1	最寄り駅 JR東海道線藤沢駅・小田急江ノ島線藤沢駅・江ノ島電鉄藤沢駅 藤沢駅北口より徒歩15分 バス:藤沢駅北口5番のりば「戸塚バスセンター」乗車、「藤沢橋」下車 タクシー:藤沢駅北口乗り場にて「遊行寺まで」とお伝え下さい	遊行寺本堂の裏手にある歴代上人廟の左側に鎮座する宇賀弁財天(国登録有形文化財(建造物):宇賀神社および木造宇賀弁財天像 室町時代)は「宇賀神さん」「銭洗い弁天さん」として親しまれ、商売繁盛・勝負運・金運上昇の御利益があるとして古来より信仰されてきました。宇賀弁財天像は遊行寺で出家した徳阿弥が応永年間(室町時代)に安置したとされるものです。のちに、紀州徳川家より宇賀神社社殿や中雀門などが寄進され、また寛政12年(1800)に遊行寺より寺社奉行所宛に出された書状では、宇賀神を徳川家の「御先祖徳阿弥公」と明記し、再建費用を頂戴した札や葵紋配置位置の報告がされているのが確認できます。 徳川家との繋がりゆかりの遺物も多く、天正十九年(1591)家康書状にて遊行寺を安堵下以降、歴代遊行上人に対して馬五十疋の伝馬朱印状(多数現存)を与えている。また徳川家寄進の品々の中には、源家康の名で描かれる「徳川家康二十将像」、徳川家光直筆「柿本人麻呂像」などがある。同時代の後水尾天皇の繪旨や古今伝授神壇図や徳川家と縁ある武将達の墓碑等も多い。
45	徳川家康陣地跡の碑	神奈川県小田原市寿町4-14-15	伊豆箱根鉄道大雄山線「緑町駅」より徒歩17分 小田原駅東口よりバス「城東車庫行」乗車→「今井」下車→徒歩1分	天正18年(1590)の小田原合戦の際に徳川家康が布陣した場所に、幕府老中も務めた小田原藩主大久保忠真(1781~1837)により建てられた記念碑です。天保7年(1836)9月17日に造立されました。碑文は大久保忠真の作で、藩の儒学者で書家でもあった岡田左太夫光雄の揮毫です。 石碑は根府川石(安山岩)で、長方形の平らな基壇と基礎石を2段に設け、その上に設置されています。「神祖大君宮趾之碑」と題し、その下に碑文が刻まれています。 碑文には、小田原合戦に際し徳川家康が豊臣方の先鋒として軍勢を率いて箱根山を越えたこと、小田原城の東方今井村(現寿町四丁目ほか)の柳川和泉守泰久の宅地に布陣し、周囲に土塁を巡らした陣場を築いたこと、忠真の先祖である大久保忠世・忠隣父子が参陣したこと、忠真時代の陣場の様子などが記されています。 小田原市の重要文化財(建造物)に指定されています。
46	大久保一族の墓所	神奈川県小田原市城山4-24-7	箱根登山鉄道「箱根板橋駅」から徒歩約5分	大久保寺は、法華宗(日蓮宗)の寺院で、天正18年(1590)の北条氏滅亡後に小田原城主となった大久保忠世が開基となり僧日英を開山として創建されました。 墓所は、南北に長い長方形で東面しており、石垣に囲まれる中に墓石7基が並立しています。墓石は、右から大久保忠常、同忠隣、同忠世、同勘三郎忠良、同忠勝、同忠俊、同勘三郎忠良の娘の墓の順に並びます。 大久保忠世は徳川家康の三河以来の重臣で、天正18年(1590)の小田原合戦の後に小田原城を拝領しました。文禄3年(1594)小田原城中で死去し、大久保寺に葬られました。 二代忠隣は、徳川秀忠のもと幕府の要職を務めましたが、慶長19年(1614)に改易・流罪となり、近江国佐和山石ヶ崎(現滋賀県彦根市)で没しました。なお忠常は忠隣の嫡男ですが、慶長16年(1611)に32歳で小田原城中で没しています。 大久保一族の墓所は小田原市の重要文化財(史跡)に指定されています。
47	山王神社	神奈川県小田原市浜町4-30-15	JR小田原駅から徒歩約20分 箱根登山バス国府津駅行き「山王橋」下車徒歩約3分	旧山王原村の鎮守です。かつては現在よりも海岸沿いの松林中に祀られていましたが、慶長18年(1613)に津波の被害にあい現在地へ移されました。小田原合戦の際には、徳川家康が日々参詣したと縁起には伝えられています。また、この付近にあったとされる篠曲輪では、天正18年(1590)6月22日に、井伊直政ら徳川方と北条方の大きな戦いが行われました。『北条五代記』には、水堀に入って死んだ者が千余人いたとの記述があり、小田原合戦でもっとも激しい戦いであったとされます。
48	小田原城(小田原城址公園内)	神奈川県小田原市城内6-1	【電車】 小田原駅より徒歩約15分 【車】 小田原厚木道路「荻窪IC」から約10分 西湘バイパス「小田原IC」から約5分 東名高速道路「大井松田IC」から約40分	小田原城は、戦国大名小田原北条氏の居城で、戦国時代の終わりには豊臣秀吉の来攻に備えて城下を囲む総構を築き、日本最大の中世城郭に発展しました。 4代当主・氏政、5代当主・氏直において小田原北条氏と徳川家康との関係は時に戦い、時に同盟を結ぶなど状況により変化しました。5代氏直は家康との同盟に際し、その娘督姫を妻とし、娘婿にあたります。 戦国時代の終わりに天正18年の豊臣秀吉との小田原合戦に北条氏が敗れた後、小田原城は家康の支配するところとなり、その家臣大久保忠世を城主として迎え、大久保氏の治下となりました。 現在の小田原城天守閣は昭和35年に復興したものです。小田原城址公園内では江戸期の近世城郭の姿に整備が進められており、天守閣のほかにも銅門や馬出門といった復元した城門などをみる事ができます。
49	旧寛永寺石燈籠(いしどうろう)	茅ヶ崎市小和田2-12-73 上正寺内	JR東海道線「茅ヶ崎駅」からバス乗車→「小和田」下車、徒歩4分	徳川家の菩提寺の上野寛永寺に歴代将軍の供養のため大名たちが奉獻したものの一つで四代家綱が共えられている。市指定文化財。
50	ぼたもち茶屋・七里役所(ぼたもちちゃや・しちりやくしよ)の案内板	茅ヶ崎市松林1-16 国道1号線歩道の上	JR東海道線「茅ヶ崎駅」からバス乗車→「菱沼」下車すぐ	「新編相模国風土記稿」の小和田村の項に、「牡丹餅/海道立場を言ふ」と出ている。街道の東西の高みの頂で、昔は海まで見通せた。江戸時代に茶屋があり、栗ぼた餅を売っていたことから、「ぼたもち茶屋」と言われた。南湖の立場と藤沢宿の間で旅人の格好の休み場となった。江戸時代には、「七里役所」とよばれた紀州藩の飛脚中継所もあった。
51	東海道の松並木	県立茅ヶ崎高校の西側から「松林中学校入口」信号の東までの国道1号線の歩道	JR東海道線「茅ヶ崎駅」からバス乗車→「茅ヶ崎高校前」下車すぐ	江戸幕府によって整備された松並木の名残。別の場所の松並木は姿を消したが、有志による保存活動が実を結び、昭和62年に街道として整備された。
52	佐々木卯之助(ささきうのすけ)の供養塔	茅ヶ崎市本村4-21-34 海前寺内	JR東海道線「茅ヶ崎駅」からバス乗車→「本村」下車、徒歩5分	鉄砲場(てっぽうば)の責任者だった佐々木卯之助は、幕府に無届けで鉄砲場内の新田開発をした罪で天保6年(1835年)に息子菊次郎とともに青ヶ島に島流しとなった。 南湖地域では、百姓のために田を開いた恩人として敬っていた。
53	一里塚(いちりづか)	茅ヶ崎市元町5890	JR東海道線「茅ヶ崎駅」北口より徒歩5分	江戸幕府が慶長9年(1604年)に五街道を整備した際に1里ごとに設置した塚。江戸から数えて14番目にあたる。
54	南湖の左富士之碑	茅ヶ崎市中町屋1丁目「鳥井戸橋」交差点付近	JR東海道線「茅ヶ崎駅」からバス乗車→「町屋」下車、徒歩2分	東海道(国道1号線)の左側に富士山を見ることができる場所。江戸時代の浮世絵師の歌川広重が描いた風景版画「南期(湖)の松原左り不二」のモデルとなった。
55	民俗資料館(旧藤間家住宅)	茅ヶ崎市柳島2-6-30	JR東海道線「茅ヶ崎駅」からバス乗車→「柳島」下車、徒歩5分	柳島の藤間家は、江戸時代には、柳島村の名主を務め、廻船業も営んでいた。幕末から明治初期の藤間柳庵は、文人名主として多くの著述を残した。現在、その場所は市指定史跡「藤間家(近世商家)屋敷跡」となっている。また、現地には昭和7年(1932)に建築家・西村伊作が設計した、和洋の意匠を対比的に採用した近代建築が残っており、「藤間家住宅主屋」として国の登録有形文化財となっている。
56	浄見寺と大岡越前守忠相公(じょうけんじとおおおかえちげんのかみただすけこう)	茅ヶ崎市堤4317 浄見寺内	JR東海道線「茅ヶ崎駅」からバス乗車→「堤坂下」下車、徒歩16分	浄見寺は大岡越前守忠相公を出した大岡家の菩提寺。大岡家一族の墓所があり市指定史跡となっている。初代から13代までの墓石58基が整然と並んでいる。(大岡越前守忠相公は5台目) 大岡越前守忠相公は八代将軍吉宗の時に、江戸町奉行に抜擢された。江戸に防火のための町火消を組織、目安箱の設置、飢饉対策のサツマイモ栽培の奨励など数々の業績を残した。
57	大岡越前祭	JR茅ヶ崎駅付近・浄見寺付近	JR茅ヶ崎駅より徒歩5分 新湘南バイパス茅ヶ崎海岸ICより10分	・江戸時代の名奉行大岡忠相公の数々の功績に対して、1912年(大正元年)従四位が贈られ、翌大正2年には、大岡家の領地であった浄見寺の墓前で、贈位祭が行われたのが大岡越前祭の始まりとなっており、関東大震災や戦争などで中断していたが、昭和31年に復活し、茅ヶ崎の春祭りとして墓前法要、越前行列など様々な催しが行われ、令和5年度は68回目の開催となる。 ・例年、菩提寺である浄見寺周辺にて、大岡越前祭の1日目に「浄見寺地元まつり」が開催される。
58	民俗資料館(旧和田家住宅・旧三橋家住宅)	旧和田家住宅:茅ヶ崎市堤3882、旧三橋家住宅:茅ヶ崎市堤4318(浄見寺境内)	JR東海道線「茅ヶ崎駅」からバス乗車→「堤坂下」下車、徒歩16分	旧三橋家住宅は文政10年(1827年)に香川の名主を務めた三橋家によって建てられた。江戸時代末期の典型的な農家の造りをよく残しているため、解体後に移築、復元された。 旧和田家住宅は安政2年(1855年)に萩園の村役人を務めていた第11代和田清右衛門によって建てられた。江戸時代末期の大型民家の特徴をよく残しているため、解体後に移築、復元された。

神奈川県東海道・宿場町・徳川家康ゆかりの地

番号	名称	住所	アクセス	コンテンツの紹介
59	鶴嶺八幡宮参道と松並木	茅ヶ崎市浜之郷732	JR東海道線「茅ヶ崎駅」からバス乗車→「町屋」下車、徒歩1分	江戸時代初期、常光院の僧朝恵が、再三の兵火により荒廃した鶴嶺八幡宮の復興を志し、浜之郷の領主であった山岡景信の援助を得て社殿を再興した。慶長2年(1649年)三代將軍家光から社領七石の朱印を得た。朝恵はこれを記念して、南大門馬場420間(約760m)の左右に松を植えた。これが現代まで残っている。参道は市史跡、松並木は市天然記念物に指定されている。
60	蔵林寺	秦野市堀山下1153	小田急線渋沢駅よりバス渋02系統・大倉行「蔵林寺」下車徒歩1分	享徳年間(1452~1455)に瑞秀祥禎和尚によって開かれ、文明年間(1469~1487)年に現在の地に移ったとされています。『新編相模国風土記稿』によると、天正19(1591)年に徳川家康から寺領15石の朱印を受けたとの記載があります。堀山下村の領主で、江戸時代の大名米倉氏の菩提寺であり、初代から15代までの当主の墓があり、当地には、5代昌純と6代昌尹(まさただ)が埋葬されています。
61	あつぎ郷土博物館	厚木市下川入1366-4	バス 本厚木駅北口1番バス乗り場「あつぎ郷土博物館」行きバス乗車 終点下車、目の前すぐ 自動車 圏央厚木厚木インターから約10分	あつぎ郷土博物館は、市民の皆さまが訪れたお客さまに「あつぎ」の歴史や文化、自然を深く知っていただき、興味や関心をもっていただくための施設です。徳川家康が中原御殿(平塚市)周辺で鷹狩をした際に当時の厚木村の名主・溝呂木氏宅に立ち寄り休息を取ったと伝えられています。同家に伝わる、江戸時代初期の狩野常信筆と思われる市指定有形文化財である「絹本着色 徳川家康像(東照宮御画像)」や、休息を取った仮屋の跡に勧請したという東照宮の棟札等を保管しています。また、徳川家康は、天正19年(1591)11月に相模国の寺社に朱印状を発給しており、市内においても、24の寺社に向けて出されましたが、明治時代に入り、明治政府に提出させられたため、通常は地域に残っていません。市内船子八幡社において奇跡的に残されていた貴重な資料である、市指定有形文化財である「徳川家康朱印状」を保管しています。他にも、江戸時代市内にあった烏山藩や荻野山中藩の関連資料も展示しています。
62	旧厚木村渡船場跡	厚木市東町8	小田急線本厚木駅下車徒歩10分	相模川の三川合流地点付近の河原は、矢倉沢往還や藤沢道、八王子道が相模川を渡る「厚木の渡し」と呼ばれた渡船場で、常時五艘の船が備えられ、旅人などに利用されていました。渡船場は、厚木村と対岸の河原口、中新田両村(現・海老名市)とで半分ずつ分け合っており、河原口、中新田両村では、村のものとなっていました。一方、厚木村の分は一部が徳川家康から厚木村の渡船権を与えられていたといわれる当時の名主・溝呂木氏のものとなっていました。家康が中原御殿(現・平塚市)周辺で鷹狩をした際には溝呂木氏宅に立ち寄り休息を取ったと伝えられています。また、その際に、家康のためにお茶を挽いた茶臼や江戸時代初期の狩野常信筆と思われる市指定有形文化財である「絹本着色 徳川家康像(東照宮御画像)」も伝わっています。なお、「徳川家康像」はあつぎ郷土博物館で保管しています。
63	烏山藩厚木役所跡	厚木市厚木町6	小田急線本厚木駅下車徒歩10分	下野国(現栃木県)烏山藩主大久保常春は、享保13年(1728)頃、相模国内に点在する領地を治めるため厚木村に代官所を置きました。現在の厚木神社北側に所在し、通称「厚木陣屋」と呼ばれ、役人たちが年貢の取立てや幕府から出された知らせを触れ回る仕事をしていました。なお、あつぎ郷土博物館において、烏山藩の関連資料を展示しています。
64	荻野山中藩陣屋跡(山中陣屋跡史跡公園)	厚木市下荻野251外	バス 本厚木北口バス1番乗り場「半原」、「まつかげ台」、「鷲尾団地」行バス 柵割下車 徒歩5分 自動車 圏央厚木厚木インターから約15分	荻野山中藩大久保家の陣屋があった跡です。大久保家は1万3千石の大名であり、天明3年(1783)頃、陣屋を駿河国(現静岡県)からこの地に移し、約80年間にわたって存在しました。陣屋は、周囲の水田より一段高い半島状に突き出た低台地に位置し、広さは約1.5ヘクタール程で、その概要は、寛政3年(1791)に描かれた絵図面により知ることが出来ます。中央には御殿が設けられ、ほかに家臣の長屋、馬場、矢場、稲荷、湧水(シミズ)、井戸、物置などがあります。発掘調査によって、台地周辺の土壌部分は、当初の姿のままであることがわかりました。今も残る稲荷社、湧水などに往時をしのぐことができます。なお、あつぎ郷土博物館において、荻野山中藩関連資料を展示しています。
65	大山	伊勢原市大山12(大山阿夫利神社下社) 伊勢原市大山742(大山寺)	伊勢原駅北口4番乗場「大山ケーブル行」バス25分、終点大山ケーブルバス停より徒歩15分で「大山ケーブル駅」、大山ケーブルカーに乗り「大山寺駅」又は「阿夫利神社駅」下車徒歩すぐ	(大山阿夫利神社下社) 創建は崇神天皇の頃と伝えられ、大山祇神(おおよますみのかみ)、雷神(いかづちのかみ)、高禰神(たかおかみ)を祭神とし、海人たちの守り神、烏石楠船神(とりいわくすぶねのかみ)を合祀している。本社は大山の山頂にあり、中腹に下社があり、大山ケーブルカーを降りると大山阿夫利神社の下社。ここは標高696m、ここからひたすら急峻な山道を1時間30分歩くと標高1251.7mの頂上にある本社に着く。神奈川の景勝50選のひとつとあって、眼下に広がる雄大な眺望は素晴らしい。 (大山寺) 「大山のお不動さん」として親しまれ、関東三大不動の一つ、また関東三十六不動の一番札所になっている。天平勝宝7(755)年、奈良東大寺の別当良弁僧正の開創とされる。文永年間、願行上人によって鑄造された本尊である「鉄造不動明王及び二童子像」は国の重要文化財に指定されている。徳川家光は、この不動明王に深く帰依されたと言われ、その乳母である春日局を行参させている。門前の鮮やかな紅葉は、多くの観光客の目を楽しませてくれる。
66	大山道	市内各地に道標が所在		大山は、古代から信仰の対象となり、「大山詣り」として、江戸の人口が100万人の時代に、年間20万人もの参拝者が訪れたと言われている。「大山詣り」の参拝者の多くは「講」と呼ばれる町内会や同業者組合による団体で、皆で費用を積み立て、お参りツアーとして「大山詣り」に出かけていた。その風習は現代まで引き継がれており、春先から夏にかけて多くの講が参拝に訪れ、行衣という白装束を纏った方々が参道を登る姿は江戸の風景を想起させる。江戸時代の講の参拝者が利用した、関東各地から大山へ向かう「大山道」には、道沿いや辻に参拝者を案内する道標が立てられた。造立年代がわかる市内最古の道標は江戸時代の寛文6年(1666)のものであり、江戸時代中期、18世紀の中頃に最も多く立てられた。こうした道標は市内外各地で見ることができる。
67	大山能狂言	伊勢原市大山355	伊勢原駅北口4番乗場「大山ケーブル行」バス20分、「社務局入口」バス停より徒歩2分(大山阿夫利神社社務局能楽殿)	大山能は、江戸時代に貴志又七郎(きしましちろう)によってもたらされた。貴志又七郎は、紀州(現在の和歌山県)の人で、徳川家康の10男で紀伊家の祖となった徳川頼宣(よりのぶ)が寵愛(ちようあい)していたという観世流(かんぜりゅう)の能楽師貴志貴太夫と同一人物ではないかとも言われているが、定かではない。少なくとも、同門の人であろうと思われる。紀州からこの地に来て、多くの門弟に能楽を伝え、「大山観世」の名を生んだ大山能の開祖となった。権田公園にある頌楽祖碑(こうがくそひ)には、「大山寺六代の別当開藏、山内融和の策として紀州家の浪人岸源次郎を迎え、町方諸人に能の伝習をなさしむ。元禄16年2月28日幕府の允許(いんきょ)を得て晴天九日間の神事能を興す…」と書かれている。以来、300年以上の伝統を誇る神事芸能として今に引き継がれている。現在では毎年10月に観世宗家をお迎えして、大山火祭新能として開催される。
68	大山の先導師旅館(宿坊)	伊勢原市大山地区	伊勢原駅北口4番乗場「大山ケーブル行」バス20~25分、「大山小学校前」~「大山ケーブル」各バス停より徒歩	慶長14年、江戸幕府將軍となった徳川家康によって掟書が出されたことにより、大山の状況は大きく変わった。掟書では「結界」すなわち妻帯しない僧侶のみが居住を許される聖域が設けられたことにより、かつては現在の男坂と女坂との分岐点にあった前不動堂を境界として、そこから上は妻帯しない僧侶たち、聖僧のみ立ち入り可能とし、聖僧以外の修験者などは下山を命じられた。下山を命じられた修験者たちの多くは宿坊を営み、それが今に続いている。
69	六刀碑	海老名市中新田3-17-76	厚木駅から徒歩12分	江戸時代の初めに徳川家康の老臣であった高木主水助清秀は5,000石を賜り、中新田に居をかまえていました。家康は鷹狩を好み、中原(平塚市)での鷹狩の帰りに、老臣清秀の住居に寄って、時服等を下賜したと伝えられています。清秀の子、正次の時に加増され大名となり、所領は河内国(大阪府)へ国替えとなりました。このとき、家臣のうち内田、遠藤、盛屋、杉本、鈴木、小川の6氏が中新田にとどまり、近くの稲荷の森に刀を納めて土着し、農業に転じました。その功を残すため、子孫の人たちが昭和41(1966)年に建てたのが六刀碑です。
70	宝篋印塔(常泉院)	海老名市上今泉4-3-1	かしわ台駅から徒歩17分	常泉院内には同寺の中興開基として元和年間(1615~1623年)に伽藍を建立した青山伯耆守忠俊の供養塔とされる宝篋印塔があります。忠俊は徳川家康譜代の家臣である青山忠成の長男、二代將軍秀忠の幼少時代の友であり、大阪冬の陣で大きな戦功をあげたため、徳川家からの信頼を受け、秀忠の長男竹千代(三代將軍家光)の養育係も務めました。晩年、相州海老名郷今泉に住み、寛永20(1643)年、66歳で亡くなりました。

神奈川県東海道・宿場町・徳川家康ゆかりの地

番号	名称	住所	アクセス	コンテンツの紹介
71	有馬のはるにれ	海老名市本郷3881 (杉久保南3-35付近)	海老名駅東口から神奈川中央交通バス「恩馬ヶ原」下車徒歩15分	本郷の上屋谷にあり、通称「なんじゃもんじゃ」の名で親しまれています。昭和29(1954)年に神奈川県の指定天然記念物となりました。江戸時代の御典医半井驢庵が朝鮮半島から持ち帰り、屋敷の門の両側に植樹されたうちの一本と伝えられ、樹齢350年以上とされています。当時、はるにれは大変珍しく、木の名前がわからなかったことから「なんじゃもんじゃ」の木と呼ばれるようになったといわれています。(※諸説あり)はるにれは春に花が咲くのでははるにれと呼ばれています。葉が出る前に花卉がないごく小さな花を咲かせます。
72	宗仲寺	神奈川県座間市座間1-3300	JR相模線 相武台下駅から徒歩5分	徳川家康お手植えの銀杏が植わっている。国立国会図書館の古文書より判明。
73	家康陣馬の跡	南足柄市矢倉沢	伊豆箱根鉄道大雄山駅より4番のりばバス「地藏堂行き」乗車→「古道入口」下車→徒歩1分	天正18年(1590年)に豊田秀吉が小田原北条氏討伐を掲げ、日本中から諸大名が小田原周辺に集結した際に、徳川家康はここ矢倉沢に陣を置いたと言われている。今は陣馬跡の案内看板があるのみとなっているが、付近の山々には多くの城址もあり、歴史の息吹を感じられる場所となっている。なお、陣を構えた中心地は私有地となっているため、今は入ることはできない。
74	矢倉沢往還		伊豆箱根鉄道大雄山線大雄山駅より徒歩	江戸赤坂御門から駿河吉原宿を結ぶ東海道の脇街道。大山詣、道了尊参り、富士登山などの旅人で賑わった。市内には関本、矢倉沢、地藏堂の3カ所の宿場があり、矢倉沢には箱根関所の裏関所5関所の1つである矢倉沢関所もあり旅人を監視していた。
75	興全寺	神奈川県高座郡寒川町宮山1785	JR相模線「宮山駅」より徒歩10分	徳川家康公と所縁のあるお寺です。興全寺の山門を解体した際見つかった元文4年(1739)5月の日付が書かれた冠木に「昔時日光東照宮大権現宮当山へ御入りの事、前々申し伝ふ也、年代を経て破壊に及びゆへ造立す、それに就き古来の冠木祈禱のため新門の中通に短柱これを用ふる者也」と記されています。これは日光東照宮大権現(徳川家康のこと)が興全寺の山門に入り参詣されたことを意味しています。※冠木については公開されていません。
76	旧中原街道	寒川町		中世以前から続く古道で東海道と矢倉沢街道の間に挟まれた脇街道です。中原道や中原街道とも言われます。江戸虎ノ門を起点とし中原御殿(平塚市)～大磯宿へと通じていました。徳川家康が江戸入りの際に通った道とも言われています。江戸と駿府を行き来する際の宿泊施設として中原(平塚市)に御殿を建てました。この御殿は徳川家康の鷹狩りの拠点としても活用されました。物資輸送にも利用され、平塚の中原付近で生産した酢を江戸城に運ぶのに利用されたため「お酢街道」の別称がありました。寒川町内には小谷と宮山、一之宮に当時の道が残っています。
77	東海道の松並木	大磯町大磯、東小磯	国道1号線旧東海道松並木:大磯中学校前・大磯駅から徒歩7分 山王町旧東海道松並木:大磯駅より徒歩15分	東海道に整備された松並木が残る
78	嶋立庵	大磯町大磯1289	JR大磯駅から徒歩7分	1660年ごろに小田原の崇雪が西行法師の歌にちなみ庵を結んだことが始まり。1695年に俳人の大淀三千風が入庵し、俳諧道場「嶋立庵」として知られるようになった。浮世絵等にも描かれる東海道に面した大磯の人気スポットの一つとなった。現在は観光施設として茅葺屋根の施設の部屋利用や庭を見学できる。
79	高麗山(旧高麗寺)	大磯町高麗	JR大磯駅から徒歩20分 神奈川中央交通バス(平47平塚駅北口-二宮駅南口)「花水」下車 徒歩5分	古くから信仰の対象であった高麗山には高麗権現が祀られた「高麗寺」があった。徳川家康にも信仰され寄進を受け、江戸時代東照大権現を併祀するなど、幕府とのゆかりある大磯宿・高麗寺村の鎮守である。明治時代の神仏分離により現在の高来神社となり、仏像は慶覚院に納められている。毎年4月に神輿をかついで高麗山をのぼる「高麗寺祭」が行われる。東海道53次の浮世絵(平塚縄手、大磯)にも高麗山の姿が描かれている。現在は県民の森として自然が残され、その一部は神奈川県の天然記念物「大磯高麗山の自然林」に指定されている。
80	鷹取山	大磯町生沢	JR大磯駅から徒歩60分 神奈川中央交通 平32(JR二宮駅南口⇄JR平塚駅北口) 徳延-松岩寺経由「生沢」下車徒歩15分	徳川家康が中原御殿で鷹狩をしていた際に逃げ出した鷹を追いかけ、捕まえた場所であることから「鷹取山」と呼ばれるようになったといわれる。標高219mで大磯町内で一番高い山である。山頂には鷹取神社があり、生沢地区の鎮守とされ、周辺の自然は「鷹取神社の社叢林」として神奈川県天然記念物に指定されている。鷹取山へ向かう道は「関東ふれあいの道・鷹取山里の道」に設定されている。
81	大磯宿案内看板	大磯町高麗～東小磯	JR大磯駅から徒歩	江戸時代の東海道53次の一つにも描かれる「大磯宿」の案内、説明を記した看板を平成31年に更新。一里塚、江戸見附、本陣、北組問屋場、虎御石、南組問屋場、高札場、上方見附など宿場の各施設跡や街道沿い的人气スポットに設置されている。
82	箱根関所	神奈川県足柄下郡箱根町箱根1番地	・電車、バスを利用の場合 小田原駅、箱根湯本駅より、「箱根町港行」箱根登山バスまたは、「箱根関所跡行」伊豆箱根バスを利用し、小田原駅より約55分、箱根湯本駅より約40分 「箱根関所跡」下車徒歩2分 ・車を利用の場合 小田原厚木道路、小田原西ICより40分 東名御殿場ICより50分 国道1号三島より40分 ※専用駐車場はございません。近隣の駐車場をご利用ください	箱根関所は、江戸時代の主要街道であった東海道を監視するため、元和5年(1619)に幕府によって設置された関所で、全国の街道に50以上あった関所の中でも特に重要視されていました。旅人たちを厳しく監視する関所では、主に「入鉄砲に出女」の取締りが行われていましたが、箱根関所では、江戸から関西方面へ向かう「出女」について、幕府発行の証文(通行手形)を必ず所持し、その内容と女性の特徴と照合する、厳しい取り調べが関所の役人たちによって行われていました。江戸時代が終わるとともにその役割を終え、建物も失われていましたが、江戸時代の資料に基づき、平成19年(2007)に幕末時の建物を完全復元しました。
83	畑宿一里塚	神奈川県足柄下郡箱根町畑宿	箱根湯本駅より箱根登山バス(K路線)約15分「畑宿」下車	一里塚は江戸幕府による街道整備の際、街道の両側に1里(約4km)ごとに設置されたもので、畑宿に残る一里塚は、東海道のうち江戸から23番目にあたります。平成10年(1998)、発掘調査をもとに江戸時代当時の姿に復元したもので、左右の塚の頂部には、モミとエノキが植えられています。箱根町内には畑宿を含めて3箇所の一里塚が置かれていましたが、当時の姿を留めているのはこの場所のみとなり、往時の姿を見ることができるのは、県内でもほとんどありません。
84	箱根旧街道(石畳と杉並木)	足柄下郡箱根町畑宿・箱根町元箱根	(杉並木)箱根湯本駅から箱根登山バス(H路線)で約33分「箱根支所前」バス停下車	江戸幕府により整備された五街道のうち主要街道であった東海道の中でも、険しい箱根の山を越える小田原～三島間の8里(約32km)は、東海道随一の難所「箱根八里」として知られていました。箱根町内を通る東海道は須雲川の谷沿いを進む道程となるため、雨天時には道が「脛までつかる」と言われるほどぬかるみ、その急斜面とともに旅人たちを苦しめました。そのため、旅人たちの便宜を図るため、街道には石畳が敷かれました。この石畳は畑宿から元箱根にかけての一部に現存しており、往時の東海道の様子を体験することができます。また、東海道をはじめとする街道には並木として松が植えられましたが、高地のため松が育たない箱根では、その代りに杉が植えられました。現在、芦ノ湖畔周辺に390本あまりが残り、往時の杉並木を伝えています。

神奈川県東海道・宿場町・徳川家康ゆかりの地

番号	名称	住所	アクセス	コンテンツの紹介
85	鷹ノ巣城跡	箱根町小涌谷字上鷹ノ巣	箱根湯本駅より箱根登山バス「湯坂路入口」バス停下車、徒歩15分	鷹ノ巣城は、天正18年(1590)の豊臣秀吉の小田原攻めに際し、後北条氏が防衛のため箱根に築城した城のひとつです。同年4月、秀吉に従って参陣した徳川家康が、この城にしばらく滞在し、その後宮城野方面へと進軍したことが史料に残されており、江戸時代には家康ゆかりの戦跡として伝えられてきました。しかし、実際の城跡についてはその位置、規模等に諸説あり、不明な点が多いです。城は鷹ノ巣山の山頂付近に築かれたとされますが、付近に明確な遺構が確認できず、その隣に位置し尾根が続く浅間山にあったとも言われています。
86	湯坂山城跡	箱根町湯本字城山	箱根湯本駅より箱根登山バス「温泉場入口」バス停下車、徒歩20分、あるいは箱根湯本駅から徒歩30分	湯坂城は鎌倉時代に整備された湯坂路(鎌倉古道)沿いに築かれた城跡です。室町時代に箱根や足柄地方を支配した大森氏によって築城されたとされ、戦国時代に同氏を滅ぼして関東一円を支配した後北条氏も、箱根の要衝を守る城として引続き整備されました。天正18年(1590)、豊臣秀吉による小田原攻めでは秀吉率いる本隊がこの城を通る湯坂路を攻め進み、その後早雲寺に本陣を置きました。
87	箱根神社	神奈川県足柄下郡箱根町元箱根80-1	箱根湯本駅より箱根登山バス「元箱根港」バス停下車、徒歩10分 箱根湯本駅より伊豆箱根バス「元箱根」バス停下車、徒歩10分	箱根神社は奈良時代の天平宝字元年(757)、箱根大神の御神託を授かった万巻上人によって社殿が建立されました。明治時代の神仏分離により箱根神社へと改称される前は、箱根権現と呼ばれていました。鎌倉幕府を開いた源頼朝をはじめ、代々の将軍や多くの武家の崇敬をあつめた同神社には、天正18年(1590)に関東へと移封された徳川家康も度々参拝し、神馬の献上や200石の領地の寄進を行いました。さらに、慶長11年(1606)に家康の命により社殿の造営が行われ、慶長17年に本殿が落成しており、「大檀那正二位源朝臣家康」の名が記された当時の棟札も、同神社には残されています。それ以降、歴代の徳川将軍からも篤く崇敬されました。
88	黒田長政供養の碑	足柄下郡真鶴町真鶴1925	JR東海道線 真鶴駅より11分	黒田長政より江戸城の用石採掘の命を受けた小河織部正良は岩小松山に良質な石材を発見し石丁場を開きました。黒田長政13回忌にあたり小河織部正良は供養の石塔を建てたといわれ、礎石部分は当時のものと伝えられています。また、採掘された「本小松石」は真鶴町でのみ採掘でき、耐久性、耐火性に優れ、江戸城の石垣や町づくりにも多用されました。
89	三増合戦場跡(みませかっせんじょうあと)	神奈川県愛甲郡愛川町三増1183-3付近	バス ●厚木バスセンター 田代經由半原行「田代坂上」下車徒歩20分 (本厚木方面) 中荻原經由上三増行「三増」下車徒歩15分 ●淵野辺・上溝・橋本駅 田名バスターミナル行「田名バスターミナル」乗り換え (相模原方面) 半原行「田代坂上」下車徒歩20分 自家用車 ●圏央道相模原愛川IC⇒国道129号を経て、県道63号(厚木愛川津久井線)(約20分) ●圏央道相模原IC⇒津久井広域道路を経て、県道63号(約15分) ●東名高速厚木IC⇒国道129、412号を経て、県道54号(相模原愛川線)(約30分) ●中央道相模湖IC⇒国道20、412号を経て、県道54号(約40分)	永禄12年(1569)10月、甲斐国の武田信玄は総勢2万の兵を率いて北条氏康の小田原城を包囲しますが、攻略することはできず、帰路を三増峠にとりました。これを察知した氏康は、麾下の将兵2万を三増に進出させます。10月6日、三増山地一帯に陣を張る武田方に対し、北条方は随所から攻撃し激戦となりました。緒戦は北条方の有利に展開しますが、武田方の遊軍が背後から挟撃すると、北条方は総くずれとなり敗走しました。『甲陽軍鑑』には、戦死者は北条方3,269人、武田方900人と記されています。関係史跡として今日に伝わるものに、信玄の旗立て松・浅利信種墓所・首塚・胴塚などがあります。
90	六郷の渡し	神奈川県川崎市川崎区旭町付近	京急大師線港町駅より徒歩10分	江戸時代、東海道の往来のためには六郷の渡しは大切な要。慶長5(1600)年「六郷大橋」を架けたが、貞享5(1688)年の大洪水で流されて以来、明治7(1874)年まで渡船が続けられた。
91	川崎稲荷社	神奈川県川崎市川崎区本町2丁目10-9	京急川崎駅より徒歩5分	「麦の穂を たよりにつかむ別れかな」元禄7(1694)年5月、故郷伊賀に向かった芭蕉が、見送りにきた門人たちと川崎宿のはずれで別れを惜しみ詠んだ句です。川崎市内には6基(他に稲毛神社、川崎大師平間寺、高津区の宗隆寺、宮前区の影向寺、麻生区の高石神社)、県内では60基を超える数多くの芭蕉の句碑がありますが、実際に句を詠んだ地に建てられた碑は少なく大変貴重なものとされています。
92	芭蕉の句碑	神奈川県川崎市川崎区日進町11-9	JR・京急八丁駅より徒歩1分	「麦の穂を たよりにつかむ別れかな」元禄7(1694)年5月、故郷伊賀に向かった芭蕉が、見送りにきた門人たちと川崎宿のはずれで別れを惜しみ詠んだ句です。川崎市内には6基(他に稲毛神社、川崎大師平間寺、高津区の宗隆寺、宮前区の影向寺、麻生区の高石神社)、県内では60基を超える数多くの芭蕉の句碑がありますが、実際に句を詠んだ地に建てられた碑は少なく大変貴重なものとされています。
93	稲毛神社	神奈川県川崎市川崎区宮本町7-7	JR川崎駅・京急川崎駅より徒歩約10分	ご創建時期は不詳ですが、ご神木の大銀杏の樹齢が一千年以上と推定される事や、江戸後期に記された『江戸名所図会』に稲毛神社が描かれている事から、当地の古社であり川崎宿の名所として知られていた事が分かります。ご神徳は「勝」と「和」。人生の困難試練や病気に打ち勝ち、和の心を持って豊かな生活を送れるようお守りください。
94	田中本陣跡	神奈川県川崎市川崎区本町1-4-6付近	京急川崎駅より徒歩4分	「本陣」とは、主に大名や公家、旗本、高僧などを対象とした江戸時代の宿泊施設のこと。田中本陣は寛永6年(1629)に川崎宿で初めて設けられた本陣で、門構えや玄関があり延べ231坪(762㎡)の堂々たる建物でした。川崎宿に三軒あった本陣のうち、江戸側にあったことから「下本陣」と呼ばれていました。本陣家の主人である田中休愚は、六郷川の渡し舟の権利を江戸川より譲り受けて、宿場の財政を立て直しました。
95	鶴見川橋	鶴見川左岸 神奈川県横浜市鶴見区市場下町6-40番地先から 鶴見川右岸 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央二丁目17-14番地先まで	JR鶴見駅東口から徒歩15分	鶴見橋(現鶴見川橋)は、家康が東海道を整備した慶長年間に架けられた橋である。六郷川の橋は元禄年間の洪水で流失し、明治初年まで渡し船になっていたため、鶴見橋は江戸を出て京都へ向かう旅人が、最初に渡る大きな橋だった。
96	本覺寺	神奈川県横浜市神奈川区高島台1-2	京浜急行 神奈川駅徒歩2分	1226年臨濟宗の祖「栄西禪師」によって開山され、その後1532年に現在の曹洞宗に生まれ変わりました。1858年に日米修好通商条約が結ばれると翌年駐日総領事の希望でアメリカ領事館に指定され境内には、ハリス植樹の月桂樹が植えられ、山門の唐獅子には当時のペンキ塗装残の跡がうっすらと残っている。
97	笠程稲荷神社	神奈川県横浜市神奈川区東神奈川2-9-1	京浜急行線「神奈川新町駅」徒歩2分	古くより神前を通る者の笠が自然と脱げて池に落ちたことから「笠脱稲荷大明神」と称され、後に笠脱の一字を「程」と改めた。板碑・節分追儺式は横浜市の文化財として伝えられている。
98	旧長延寺・土居跡	神奈川県横浜市神奈川区新町16	京急 神奈川新町駅1分	寛永8年から昭和40年までの330年余の間、浄土真宗長延寺が所在した場所で、現在は公園となっている。お寺は、開港当時、オランダ領事館に充てられた。また、江戸時代の宿場町の入口には、樹形が作られ長延寺前にも、土居を互い違いに突き出した樹形があった。

神奈川県東海道・宿場町・徳川家康ゆかりの地

番号	名称	住所	アクセス	コンテンツの紹介
99	宗興寺	神奈川県横浜市神奈川区幸ヶ谷10-6	京急本線 神奈川駅から徒歩6分	曹洞宗、旧小机三十三観音霊場第八番札所。横浜開港当時は、アメリカ人宣教師で医者へのボン(1815～1911)は宗興寺で診療を行っていた。宗興寺が療養所として機能した期間は、文久元(一八六一)年、四月から九月までのわずかに五ヶ月間でしたが、この間三五〇〇人の患者に処方箋が渡された。また、へのボンは、「へのボン式ローマ字」でも知られている。
100	大綱金刀比羅神社(一里塚跡)	神奈川県横浜市神奈川区台町7番地34号	横浜駅鶴屋町出口から徒歩2分	海陸交通安全、商売繁盛などの守護神を祀る神社
101	高札場	神奈川県横浜市神奈川区神奈川本町8-1	JR東神奈川駅・京急 京急東神奈川駅より徒歩6分・東急反町駅より徒歩12分 バス:横浜市営バス29、31、36、39、82系統 ニツ谷町より徒歩6分	高札場は、幕府の法度や掟などを庶民に徹底させるために設けられた施設です。宿場の施設としては重要なものですが、明治に入り情報伝達の手段が整うにつれて、やがて姿を消してしまいました。当時の高札場は、神奈川警察署西側付近にあり、この高札場は資料をもとに復原したものです。
102	神奈川の大井戸	神奈川県横浜市神奈川区幸ヶ谷10-6	京急本線 神奈川駅から徒歩6分	境内には、直径六尺、深さ二丈の大井戸があり、どんなに汲み上げても、日照りの時にも乾くことなく満々と清水をたたえていた。二代将軍秀忠が当地に宿泊された折には茶の湯として用いられた。この井戸には、井戸の水の水量が増えると明日の天気良くなるという不思議な言い伝えがあり、お天気井戸と言う呼び名で旅人にも親しまれた。
103	金蔵院	神奈川県横浜市神奈川区東神奈川1丁目4-3	JR・京急東神奈川駅より徒歩3分	金蔵院は、京都醍醐三宝院の開祖勝覚僧正により平安末期に創られた古刹である。その後、徳川家康から十石の朱印地を許された。「金川砂子」の図に描かれているには江戸後期の様子では、参道は街道まで延び、金蔵院・熊野神社が境内に並び立っている。本堂前には徳川家康の「御手折梅」と称された梅の古木が描かれている。かつては毎年1月に当院の住職が、この梅の一枝をたずさえて登城するのがならわしであったという。
104	旧帷子橋跡	神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩間町1丁目5(天王町駅前公園内)	相鉄線天王町駅から徒歩約1分	江戸時代、東海道が帷子川を渡る地点に架けられていた帷子橋は、絵画に描かれたり、歌や俳句に詠まれるなど、保土ヶ谷宿を代表する風景として知られていました。中でも初代広重の「東海道五十三次之内 保土ヶ谷」は特に有名です。帷子橋の跡地は、現在の天王町駅前公園の一部にあたり、平成10年に横浜市地域文化財に登録されました。
105	浅間神社	神奈川県横浜市西区浅間町1-19-10	JR横浜駅より徒歩15分	心静かにお参りし、御神徳をお受けください。
106	武相国境モニュメント	神奈川県横浜市保土ヶ谷区境木本町4-17	JR保土ヶ谷駅よりバス10分 JR東戸塚駅より徒歩16分	この地が武蔵国(保土ヶ谷宿)と、相模国(戸塚宿)の境であり、昔は木の杭が立てられていたので境木といわれるようになりました。モニュメントは、平成17年に設置されたものです。
107	大仙寺	神奈川県横浜市保土ヶ谷区霞台15-16	JR保土ヶ谷駅徒歩6分	開山は平安時代中期(969年)といわれ区内で最も古い寺の一つ。本陣をつとめた軽部家の菩提寺であり、旧東海道からは山門をくぐり参道が続いていた。
108	御所台の井戸(政子の井戸)	神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町71-4	JR保土ヶ谷東口から徒歩7分	北条政子が鎌倉へ行く途中、ここで休んで井戸の水を使ったといわれています。また、明治には天皇が本陣でご休憩された際にも、この井戸の水が使われたという話が伝わっています。
109	境木地蔵尊	神奈川県横浜市保土ヶ谷区境木本町2丁目17番地	JR東戸塚駅下車、市営バス境木中学校行「境木地蔵尊前」下車	境木は武蔵と相模の国境で東海道の難所であった権太坂をのぼりきった所にあり、江戸時代には名物の牡丹餅で疲れをとり大変にぎわったと伝えられています。境木のお地蔵さんは江戸の人たちにも尊敬され、境内には当時寄進された石燈籠・水鉢が残っておりお地蔵さんの土台には万治二年と記されています。
110	復元した一里塚と松並木・上方見附モニュメント	神奈川県横浜市保土ヶ谷区保土ヶ谷町2丁目	JR保土ヶ谷駅から徒歩13分	平成17年12月、横浜市の事業である第1回「ヨコハマ市民まち普請事業」に選ばれ、平成19年2月に復元しました。塚の上には榎を植え、松並木とともに宿場時代の再現に努めました。
111	権太坂(碑)	神奈川県横浜市保土ヶ谷区権太坂1丁目7	「権太坂」バス停から徒歩5分	権太坂は、東海道を江戸から西へ向かう旅人がはじめて経験するきつい登り坂でした。そのため、旅人にとっては印象深い場所になり、浮世絵などにも描かれる保土ヶ谷宿の名所ともなりました。「権太坂」の名前の由来は、道ばたの老齢の農民に旅人が坂の名を聞いたところ、耳の遠いこの老人は自分の名を聞かれたと思い、「権太」と答えたためとされています。
112	上方見付	神奈川県横浜市戸塚区戸塚町		江戸方見附から、約2.2kmの距離にある戸塚宿京方の出入口です。現在は道の両脇に1.5mほどの石の囲いがあり、昔と同じように京に向かって左に松の木、右に楓の木が植えられています。ここから京方は数々の浮世絵の背景に登場する長大な大坂の上りが続いています。
113	王子神社	神奈川県横浜市戸塚区柏尾町939		王子神社には、鎌倉幕府滅亡～南北朝までの動乱の時代の英雄の一人とも言われている、護良親王伝説が伝わっています。護良親王が殺害された後、打ち捨てられていた首を、王子神社付近にある井戸で洗い清められたのち、王子神社の本殿に当たる場所に埋葬されたとも言われています。
114	善了寺	神奈川県横浜市戸塚区矢部町125	JR戸塚駅より徒歩7分	浄土真宗本願寺派の寺院です。戸塚にきて約400年余、境内には地元のNPOとコラボしたカフェを併設。
115	大橋(広重浮世絵モニュメント)	神奈川県横浜市戸塚区吉田町	戸塚駅から徒歩	歌川広重の「東海道五拾三次之内戸塚 元町別道」に描かれている戸塚区宿を代表する場所の一つです。当時は長さ10間(18.2m)、幅2間半(4.6m)の板橋でした。現在の橋は昭和61(1986)年に架け替えられたもので、両側に大名行列が持つ毛槍(けやり)を模した街灯が建っています。
116	ふじさわ宿交流館	神奈川県藤沢市西富1-3-3	JR藤沢駅北口より徒歩14分、小田急藤沢本町駅より徒歩15分	藤沢宿は、江戸時代には旧東海道の宿場町として、大山詣や江の島詣をする人々の交通の要衝としてにぎわいました。ふじさわ宿交流館は、藤沢の歴史や文化に触れ、人々が交流できる場です。
117	白旗神社	神奈川県藤沢市藤沢2-4-7	小田急線藤沢本町駅より徒歩7分	当社は古くから藤沢の地に鎮座する古社で、相模國一之宮寒川神社で有名な寒川比古命と歴史上のヒーロー・源義経公をお祀りしています。寒川比古命は厄除け・方位除けの神様として知られます。また武芸、芸能、学問に優れ、才気あふれる源義経公は、学業成就、社運隆昌などのご神徳があります。境内には、悠久の歴史を感じる史跡が多く、四季を感じられる緑豊かな自然もあります。ぜひ早起きした朝やお休みの日にも、お気軽に当社にお越しください。皆様のご参拝を心よりお待ちしております。
118	伝義経首洗い井戸	神奈川県藤沢市藤沢2-1-10	小田急江ノ島線「藤沢本町」下車徒歩5分	旧東海道から小道に入った奥にある小さな公園の片隅に伝義経首洗い井戸があります。鎌倉を追われ奥州で自害した源義経の首は、鎌倉での首実検の後、浜に打ち捨てられたといわれていますが、潮の干った川をさかのぼり漂着した首を地元の人がすくいあげ、この井戸で洗い清めたという伝説が残っています。

神奈川県東海道・宿場町・徳川家康ゆかりの地

番号	名称	住所	アクセス	コンテンツの紹介
119	常光寺	神奈川県藤沢市本町4-5-21	小田急江ノ島線「藤沢本町」駅下車徒歩7分	元龜3年(1572)に創立された浄土宗の寺です。境内全体を樹木に囲まれ、その樹木すべてが市の天然記念物に指定されています。その中でも樹齢300年～400年のカヤの大木は「かながわの名木100選」にも挙げられています。本尊の阿弥陀如来は市の重要文化財で、もと鎌倉扇ヶ谷の阿弥陀如来堂にあったものを移したといわれています。境内にある2基の庚申塔は、中世に建てられた貴重なものです。市の重要有形民俗文化財に指定されています。
120	藤沢市藤澤浮世絵館	神奈川県藤沢市辻堂神台2-2-2ココテラス湘南7階	JR辻堂駅東口改札北口出口から徒歩5分	藤沢の地は、江戸時代には東海道藤沢宿として栄え、また信仰・行楽の地であった江の島もあり、名所や伝説に根差した多くの浮世絵が描かれてきたところです。藤沢市藤澤浮世絵館では、年6回の展覧会の会期ごとに全作品を入れ替え、魅力的な浮世絵や郷土資料の数々をご紹介します。入館は無料です。
121	江の島弁財天道標	神奈川県藤沢市藤沢1丁目1	JR藤沢駅北口から徒歩10分	この石柱は藤沢宿から江の島へ向かう参詣路である「江の島道」沿いに建てられていた江の島弁財天道標の一つです。江の島弁財天道標は、江戸時代初期の鍼灸師であり管鍼法を考案したことで知られる杉山検校が参詣者の道しるべのために寄進したものと伝えられています。現在、市内で所在が確認されているもののうち、十二基が藤沢市の重要文化財に指定されています。
122	旧桔梗屋	神奈川県藤沢市藤沢1丁目1-9	JR藤沢駅北口から徒歩10分	江戸時代の嘉永年間(1848～1855年)頃から藤沢宿で茶や紙の間屋を代々営んでいた旧家です。現在の建造物のうち店蔵と主屋は明治44年(1911年)に竣工したもので、黒漆喰塗の外壁や観音開窓の意匠が江戸型と呼ばれる店蔵の典型的な特徴を有しています。かつての景観を現代に伝える貴重な存在であること等が評価され、国登録有形文化財(建造物)に登録されています。
123	平塚宿江戸見附跡	神奈川県平塚市見附町1	JR東海道線 平塚駅 徒歩5分	旧東海道沿いの、江戸側の出入り口にあたる「江戸見附」から京側の「京方見附」の間の約1kmにわたり広がっていた平塚宿です。江戸口見附は、明治初期の駐日イタリア大使のバルバローラ伯爵が母国に持ち帰った写真をもとに復元されました。
124	脇本陣跡	神奈川県平塚市平塚2丁目1	JR東海道線 平塚駅 徒歩10分	江戸時代の宿場には、幕府関係者や大名を泊める宿として「本陣」があり、この本陣の補助的な役目を果たしたのが、「脇本陣」と呼ばれる宿舎でした。平塚宿には本陣・脇本陣がそれぞれ一軒ずつありました。
125	本陣旧跡	神奈川県平塚市平塚2丁目31	JR東海道線 平塚駅 徒歩15分	東海道宿場町に置かれた高級旅館で、参勤交代のほか、公家、公用の幕府役人などが宿泊したのが「本陣」と呼ばれる大旅館です。平塚宿本陣は建坪163坪で、座敷数が20あり、門・玄関・上段の間が取り付けられていたと言われていました。
126	平塚の塚	神奈川県平塚市平塚4丁目10	JR東海道線 平塚駅 徒歩20分	旧東海道をやや離れた「平塚の塚緑地」にある、「平塚の碑」です。一説では、ここが「平塚」の地名の由来の場所とされています。言い伝えによると、平政子という方がこの地で亡くなり、その柩を埋めて塚を作ったところ、塚の上が平であったことから、里人がそれを「ひらつか」と呼び、これが地名になったといわれています。
127	西組問屋場跡	神奈川県平塚市平塚4丁目2	JR東海道線 平塚駅 徒歩15分	問屋場(といやば)とは、幕府の公用旅行者の荷物の運搬や馬の手配を取り扱う場所で、駅・役所・警察の役目も負っていました。西組は1601年に西仲町に置かれました。その後、参勤交代によって東海道の交通量が激増したため、平塚宿は隣接の八幡新宿への加宿を幕府に願って、その際、東組問屋場が、1651年に増設されています。西組問屋場跡地の江戸風の建物は、宿場を模して建てた消防団のものでした。
128	妙安寺	神奈川県平塚市平塚1丁目12-15	JR東海道線 平塚駅西口より徒歩10分	400年の歴史をもつ寺院。養殊院お万の方(徳川家康の側室)の奥女中、妙安尼が開いたとされています。お万の方の自仏である鬼子母神を祀っています。秋の七草は、ナデシコが咲きます。
129	お菊塚	神奈川県平塚市紅谷町15	JR東海道線 平塚駅	紅谷町公園の一角にあるお菊塚は江戸時代の怪談話「番町皿屋敷」に登場するお菊の墓跡で、公園にひっそりと建っています。今も賑わう故郷・平塚で、お菊は静かに眠っています。
130	平塚宿高札場跡	神奈川県平塚市平塚2丁目30	JR東海道線 平塚駅 徒歩15分	高札場とは、幕府や領主による最も基本的な法令を書き記した「札」が掲示された場所で、各宿場のほか村々にも設けられていました。平塚宿の高札場には、隣り合う藤沢宿や大磯宿への公定運賃なども表示されていたそうです。
131	川勾神社	神奈川県中郡二宮町山西2122	JR二宮駅南口から神奈中バス「押切坂上」下車徒歩20分	川勾神社は約2000年の歴史があり、困難におちいっても良い風を吹かせて幸せを導いてくれるご利益がある「風の神様」がいます。また、徳川家康公が九州名護屋出陣の際、祈禱札を献上し、それ以後歴代徳川将軍に御朱印地を認められ、正月には必ず江戸城に登城してご挨拶申上げ、御祓札を献ずるのが例となり、幕末まで続いておりました。
132	小島本陣跡	神奈川県中郡大磯町大磯付近	大磯駅より徒歩約5分	大磯宿には大名等が宿泊する施設として設けられた本陣が3軒ありました。その内の1軒が小島本陣で、このスポットは小島本陣があった場所です。小島本陣の敷地は、現在の信号「大磯消防署前」の交差点の道路に接するところまであり、その道の反対側にはもう一つの本陣、尾上本陣がありました。この場所は、大磯宿の中心地でした。
133	大磯城山公園	神奈川県中郡大磯町国府本郷551-1	大磯駅より二宮方面行き・西公園前行き・大磯プリンスホテル行きバス乗車、約7分「城山公園前」下車徒歩3分	旧三井別邸地区と旧吉田茂邸地区の2地区からなる明治、昭和時代の別荘跡地を活用した情緒あふれる公園です。当時の面影を感じさせる日本庭園や建物があり、相模湾と富士山を望む湘南の雄大な景観を楽しめ、湘南地域の邸園文化の歴史にふれあうことのできる公園です。
134	旧島崎藤村邸	神奈川県中郡大磯町東小磯88-9	大磯駅より徒歩8分	藤村が晩年を過ごした昭和レトロな旧宅で、三間の平屋建ての民家です。外壁には杉の皮、引き戸には大正ガラスが使われています。また、小さい素朴な冠木門に割竹垣に囲まれた小庭は藤村の心の慰めで、この家を静の草屋と呼んでいたそうです。
135	化粧坂の一里塚	神奈川県中郡大磯町大磯82	大磯駅より徒歩14分	街道の松並木の風情が残る化粧坂では、歌川広重の浮世絵「大磯 虎が雨」に描かれた風景を感じることができます。
136	小田原宿なりわい交流館	神奈川県小田原市本町3丁目6-23	小田原駅東口より徒歩7分	昭和7年に建設された旧網間屋を再整備し、誰でも立ち寄れる「お休み処」や市民活動の発表の場として、平成13年に開館しました。小田原の典型的な商家の造りである「出桁(だしげた)造り」という建築方法が用いられており、令和4年に登録有形文化財に指定された貴重な建物です。
137	小田原市郷土文化館	神奈川県小田原市城内7-8	東海道線小田原駅から徒歩15分	1955年に開館した小田原市郷土文化館では、旧石器時代から現代までの小田原の歴史や民俗、自然に関する資料を展示しています。また、「おだわらデジタルミュージアム」では、“いつでも”“誰でも”“簡単に”、市が所蔵する考古・歴史・民俗・美術・文学・自然・美術の資料を閲覧・検索できます。あわせてご覧ください。
138	大久寺	神奈川県小田原市城山4-24-7	箱根板橋駅より徒歩5分	天正19年(1591年)、徳川家康の忠臣であった小田原藩祖大久保忠世公が自身の菩提寺として建立したお寺です。忠世公をはじめとする大久保一族の墓所が小田原市文化財として史跡になっています。境内は東海道線・箱根登山電車・ロマンスカー・新幹線などの線路に囲まれ、歴史のみならず時代の流れも感じることが出来ます。
139	萬松院(ばんしょういん)	小田原市風祭863番地	小田急線 風祭駅徒歩5分	萬松院(ばんしょういん)は、文禄元(1592)年、徳川家康嫡男 松平信康を供養するために小田原城主 大久保忠世により建立された。境内には 松平信康公供養塔がある。また、美濃国鷺沼(うぬま)城主 大澤正秀・正重父子の2メートルを超える石造五輪塔は、この地方の慶長期型五輪塔として最大のもので、貴重な石造文化財である。

神奈川県の東海道・宿場町・徳川家康ゆかりの地

番号	名称	住所	アクセス	コンテンツの紹介
140	箱根甘酒茶屋	神奈川県足柄下郡箱根町畑宿 二子山 395-1	箱根湯本駅から箱根登山バス元箱根港行「甘酒茶屋」バス 停車	江戸初期創業。江戸の頃より変わらない製法の甘酒は、無添加、ノンアルコールで自然の甘さ。他に力餅、みそおでんなど茅葺き屋根の建物で昔の風情を楽しんでいただけます。
141	箱根旧街道休憩所	足柄下郡箱根町畑宿 395	箱根湯本駅から箱根登山バス(K路線)約23分「甘酒茶屋」バス 停車すぐ	箱根旧街道の甘酒茶屋に隣接して建っています。箱根旧街道ハイキングの休憩スポットとして知られており、展示コーナーでは東海道の難所である箱根越えに関する資料や甘酒茶屋にちなんだ逸話を展示しています。
142	お玉ヶ池	神奈川県箱根町元箱根110	箱根湯本駅から箱根登山バス(K路線)約26分「お玉ヶ池」バス 停車すぐ	箱根旧街道沿いにある池がお玉ヶ池です。江戸時代までは、「なずなが池」と呼ばれておりましたが、ある一件をきっかけにお玉ヶ池と呼ばれるようになりました。江戸時代中期、伊豆の国生まれの「お玉」が叔父が営む江戸の奉公先から実家恋しさに抜け出し、箱根の関所を破ろうとしたところ捕縛され獄門(さし首)とされたようです。その後「なずなが池」は数多くの言い伝えを残し、いつしか「お玉ヶ池」と呼ばれるようになりました。

※令和5年10月時点の情報です。

※アクセスの所要時間は目安です。